【樹木の部屋】

コルクガシ（ブナ科コナラ属　Quercus suber ）

和名：コルクガシ　　別名：　　英名：cork oak

ブナ目　常緑高木　　原産地：地中海沿岸

花言葉：　　花の色：

↑→ 写真-１、２　コルクガシの樹形と木肌
撮影日：2019 年 02 月 23 日
撮影場所：アレンテージョ地方
(ポルトガル)にて
撮影者：Ｍ　さん

→ 写真-３　コルクガシの葉
撮影日：2019 年 02 月 22 日
撮影場所：アルコバサ
(ポルトガル)にて
撮影者：Ｍ　さん

← 写真-４　コルク層
撮影日：2019 年 02 月 22 日
撮影場所：アルコバサ
（ポルトガル）にて
撮影者：Ｍ　さん

→ 写真-５　コル層
撮影日：2019 年 02 月 23 日
撮影場所：アレンテージョ地方
（ポルトガル）にて
撮影者：Ｍ　さん

アベマキ（ブナ科コナラ属の落葉高木）からもコルクは採れるそうですが、コルクガシの場合、コルク層は 25ｃｍにもなり、樹齢 20 年に達したコルクガシのコルク層を剥ぎ取っても生育は阻害されず、再び厚いコルク層が再生されるそうです。

写真-４は、植栽後一度も剥ぎ取られていないコルク層、写真-５は一度以上剥ぎ取られ後、成育中のコルク層。

樹齢約 25 年になったコルクガシから初めて商用のコルク層が収穫される（バージンコルク）そうです。2 度目の収穫はその 9 年から 12 年後。その後 150 年から 250 年ほどに渡ってコルク層を収穫することができ、1 本のコルクガシはその生涯に約 12 回の収穫を行うそうです。ポルトガルでは、採取した際、幹に採取年を標記し、9 年後以降に再採取して出荷するそうです。実際に白ペンキで数字が書かれていました。例えは「6」とか・・。これは 2016 年に採取した樹を示すそうです。日本で、建築資材として植林するスギなどを思い出します。幼木から初出荷まで、一世代以上・・

ポルトガル南部のアレンテージョ地方は、コルクガシの一大産地。オリーブ畑とともに、丘陵地帯に拡がっていました。

＜ちょっと一言＞

＊コルクガシの樹皮(コルク層)の用途としてまず挙げられるのは飲料瓶の栓、それもワインボトルの栓ですが、コルクの全体消費量の約 15%にすぎないものの、収入では 66%を占めているそうです。

＊ワインのコルク栓は樹皮を打ち抜いて造るそうです。打ち抜いた後の端材は、粉砕して成型加工され、フローリング用床材や断熱材、防音材、手工芸品などに使用され、バドミントンのシャトルコック、釣り竿のグリップなどにも使用されています。

＊コルクの生産量でポルトガルは全世界の生産量 50%を超えるそうです。